

AI見守りサービスを活用した道営住宅等における高齢者遠隔安否確認

対象課題

高齢独居世帯が増加する一方で介護従事者の人手不足。
コロナ禍における対面サービスの減少による見守り機会の喪失。

実施目的

高齢独居世帯が増加する天塩町で遠隔によるAI見守り安否確認を実施し、遠隔での見守りの有効性の検証と、地域ケア業務の負担削減。

実施内容

参加者のご自宅の分電盤にAI見守りサービス「そっとねっと」を取付、家電利用状況の把握による安否確認を行う。

そっとねっとについて

「そっとねっと」は、各住居のブレーカー等が入っている分電盤内にIoTセンサーを1つ設置し、電力使用データをクラウド上に蓄積、電力周波数をAIで分析して、家電ごとの使用状況を把握できる技術。

設置機器

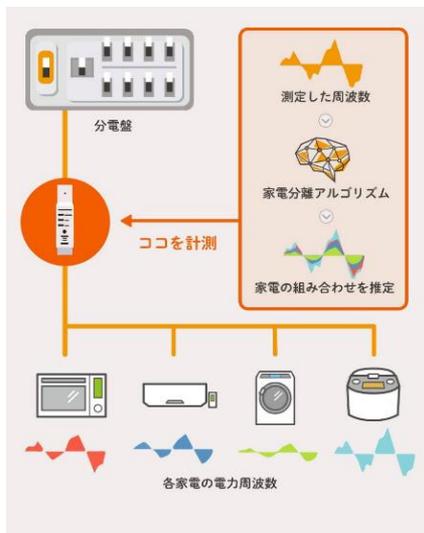


エネルギーセンサー クランプ式電流センサー ホームルーター

設置の様子



家電使用分析のイメージ



アラートの設定：5つの異常行動を分析

- ① 5～13時の間、家電の使用がなかった場合
- ② 13～21時の間、家電の使用がなかった場合
- ③ 5～21時の間、家電の使用がなかった場合
- ④ 深夜時間帯の利用が過去7日間で2日以上あり、かつ当日深夜に家電利用がある場合
- ⑤ 掃除機を3時間以上連続利用

実施結果

- ① 遠隔での見守りによる直接訪問業務の負担軽減
市街地 10～40分程度、農村地区 40～80分
→ 架電による対応で5～10分の対応時間に削減が可能
- ② アラート時の架電でコミュニケーション機会の発生
近所付き合いの少ない遠方の農村地区において、アラートをきっかけとした架電により参加者と地域ケア担当者がコミュニケーションをとることができた。

事業の評価

カメラと違い、参加者の心理的な負担を少なく見守ることができるサービスということで参加者の満足度は高かった。架電の際に見守られている安心感を感じることができた。一方で費用負担に関しては、できるだけ定額でというニーズがあり使用料の設定は今後の課題である。



天塩町



ヤブタエネジス株式会社